

- ・留学期間：2 年次 秋学期
- ・所属学科：総合社会学科

ひたすら語学の勉強に打ち込む

私の今回の留学目的は語学と韓国文化、日韓の歴史問題について勉強することでした。

私は基本的な文法と少量の単語しか分からない状況で留学をしました。韓国に着いて数日過ぎて、自分の語学力の無さを実感し、もっと勉強しておけば良かったと後悔しました。そのため単位欲しさに沢山授業をとってついでにいけないと思ったので、授業を少なくし 1 人で勉強する時間を多く作ることにしました。結局、私が履修した科目は全て 2 単位で 6 科目にしました。

授業ではもちろん全て韓国語です。先生が話すことを聞くのに必死でした。私は自分の語学力を上げたいと思い、授業が終わった後は大学の図書館に行き、教科書の翻訳をして分からない単語はノートにメモをとるなどの勉強をほぼ毎日していました。湖西大学の図書館はとても広く環境が整っていたので勉強がしやすかったです。休日は 24 時間空いており、予定がない休日は夕方から夜まで図書館にいる日もありました。そんな生活を 2 ヶ月した位からある程度の韓国語を聞き取れるようになりました。3 ヶ月目には韓国人の友達や中国人の友達と韓国語で喋れるようになりました。分からない言葉は携帯の翻訳アプリを使うなど、会話をするのがどんどん楽しく感じていきました。もっと韓国語を勉強して発音も頑張らなければいけないという課題はまだ残ってはいますが、この約 4 ヶ月での自分の韓国語学習に後悔はないです。

充実の学園祭や実践的な授業

学園祭では、金居先生の授業で立案された「ホソワート」を計画、実行しました。「ホソワート」は『ハリウッド』をモデルとし大学内を「ホグワーツ風」にするなど規模が大きかったです。私たち留学生は韓国人学生たちと一緒に仮装して踊りを披露しました。湖西大学の学園祭は規模が大きく、韓国の有名な歌手やラッパーが来ました。また、学生のダンス披露などがありました。学園祭終盤には校舎を利用したプロジェクトマッピングがあり最後には花火が打ち上げられました。この花火を見てなぜか分かりませんが留学して良かったと感動していたのを今でも覚えています。

「大衆音楽公演企画」では授業を受けている学生で公演を立ち上げるといった貴重な体験ができました。私は広報活動で大学内の人にチラシ配り、ステージ設計をしました。

テスト期間はとても大変でした。「韓国語リスニング」のテストは自分の故郷について PowerPoint を使ってみんなの前で発表するというものでした。私は仲良くなった中国人の人とペアになり発表を無事成功することができました。この発表で特に気をつけたのは韓国語の発音です。韓国語の発音はとても難しいため、

ルームメイトに聞いてもらって発表の文を読み、発音が違う部分を訂正するなどの努力をしました。

クラブ活動にも参加

湖西大学在籍中に日本語クラブにも参加していました。日本語クラブとは日本語や日本文化に興味がある韓国人達と私たち日本人留学生が交流し、お互いの語学力を上げていくといった目標を持ち活動しているクラブです。私はこのクラブでも多くの韓国人の友達を作ることができ、毎週行くのが楽しみでした。理由は日本語を喋れる韓国人が多く、アニメや漫画といった共通の趣味で会話ができるからです。大学の授業みみたいなスタイルで日本語クラブは進行していくのですが、とても和気あいあいとしておりみんな楽しく勉強していました。

寮での生活で、自分の殻を破る

私は韓国人と同室で4人部屋を希望していたのですが、日本人男性と2人部屋でした。しかし、生活リズムが全く合わず色々な問題が生じていく中で同じ部屋に住むのが苦痛になってきました。そんな時に、留学生サポートという形で出会った数多くの韓国人寮生と仲良くなりました。そしてその友人の部屋を訪れては一緒に喋ったりチキンを宅配して一緒に食べたりしていました。そんなある日、友人の部屋に住んでいた1人が部屋を変えたと聞いたので、私がこの部屋に移ってもいいか？と相談しました。そして、私と寮長と彼の3人で話し合った結果、部屋を移動していいことになりました。私は今まで思ったことをハッキリと他人に言葉で伝えるのが苦手でした。留学を通して少し自分を変えようと思っていた私にとって、部屋を変えたという行為は少し自信に繋がりました。同じ部屋だった日本人男性も私が部屋を移るのを了解してくれました。

部屋を移動してからは毎日が刺激的でした。私を合わせ部屋のみんな4人揃って食堂でご飯を食べている時も、食べ物の由来などを説明してくれたり、授業が終われば、4人でバスに乗って遊びに行ったり韓国料理を食べたりなど、色々なところに連れて行ってくれました。また、私が部屋で勉強している時に分からないことがあればすぐに聞けるのでとても有意義な時間を過ごすことができました。

歴史認識について考える

私は日韓の歴史問題について興味がありました。この留学で日韓の歴史の真相や真実を知りたいという訳ではなく、韓国人から見た日本人や歴史に興味がありました。私は歴史とは国や人種が違えば思想や宗教が変わるように、歴史認識も国が違えば変わると考えています。そこで韓国人から見た日韓の歴史に

ついて韓国人のルームメイトたちに聞きました。ルームメイトの 1 人は歴史の話をしていくと最終的には日本や日本人が悪いなどということを書いてくる人でした。私は言葉では表せない感情が胸に生まれました。なぜなら、いつも衣食住を共にし、仲良く過ごしているのに、歴史の話になるとこうも人は変わるのかと思ったからです。歴史とは簡単に語るものでは無いと思いました。そのような話をして以降、何かある度に日韓問題を口にするようになりました。

私は韓国人の友達 2 人と天安にある独立記念館にも行きました。そこで見たものは私が日本で勉強してきたものとは違うものが沢山あり衝撃でした。慰安婦が日本軍によって強制連行されている模型や、竹島を独島と表示していたり、挙げればきりがありません。この独立記念館には軍服を着た方が多かったので韓国人の友達にその理由を聞くと、兵役中に独立記念館や他にもある歴史記念館といった場所に行くと休日が 1 日貰えるそうです。これを聞いて鳥肌が立ちました。さらに天安に住む韓国人の友達はこの独立記念館を数十回訪れていました。小学生や中学生の時に遠足感覚で訪れていたそうです。韓国では反日教育がなされているというのが日本人から見た一般的な認識だと思いますが、私は教育の過程で反日思想が刷り込まれていくのかなと思いました。

この報告書で私の個人的思想はあまり書きませんが、歴史とは簡単に語るものでは無くましてや多国籍の人に安易に持ちかけるものでは無いと実感しました。

留学を終えて

留学生活を終えて分かったことは留学前の勉強がどれだけ大事かということです。私は留学に来てから勉強をしてなんとか韓国語でコミュニケーションが取れるレベルにまでいきましたが、もしそのレベルにまで留学前に達していればまた違った留学生活を送っていたはずですが、さすが後悔はしていません。自分の努力が結果として出て、母国語ではない言語でコミュニケーションが取れるという素晴らしい経験ができたからです。この留学を終えて韓国の色々なことを知ることができました。今まではマスメディア等でしか韓国を知りませんでしたが、実際に現地に行って留学しなければ分からなかったことが沢山ありました。この留学は私の人生においてかけがえのないものになりましたし、価値観や考え方などが大きく変わるきっかけにもなりました。この経験が将来に全て繋がるかまだ分かりませんが、必ずどこかで活かせる時があると思います。このような経験ができたのは親の支援や大学生活の中で留学生と交流していたこと、何より京都文教大学に入学し国際文化コースに入れたからだと思っています。この留学で関わった全ての人に感謝し、この留学経験をこれからの大学生活で活かしていきたいです。